

川 田 篤 氏

- ・ 前回に引き続き、総合評価落札方式に注目してみたところ、辞退も失格も時に多いとの印象がある。平成20年度下半期は、資材価格の変動があり、積算に混乱があったようである。
- ・ 世の中は、まさに不況であるが、入札における透明性や競争性を高める工夫と努力に期待したい。

中 原 國 隆 氏

- ・ 公正公平、競争性、透明性の確保を土台としながら昨今の状況を踏まえ、19年度・20年度と必要な入札制度の見直しや運用の改善がなされてきたと思います。太田市行政としては、低い視座からの丁寧でかつ着実な取り組みに敬意を表したいと思います。
- ・ 国、県の関連する公共工事でも同様な取り組みに向かえるようなきっかけづくりを期待します。

穂 積 照 雄 氏

- ・ 入札制度の見直しについては、現行制度の成果を検証し、地域経済状況や市民ニーズを勘案した改善となるよう努めて欲しい。
- ・ 総合評価落札方式の評価基準については、県内及び近隣自治体の入札制度情報を収集し、より良い制度となるよう十分研究の上進めて欲しい。

神 保 益 夫 氏

- ・ 一般競争入札では、建設業者の積算が見合わないとの理由で入札辞退ができることは、建設業者が仕事を選べる状態となっている。
発注者としては、こうした経過で入札中止や不調が発生することについて問題意識を持ち、適正な発注行なわれるよう配慮して欲しい。

池田光男氏

- ・ 20年下半期の入札状況を見ると、昨年の工事資材の高騰が影響し、条件付一般競争入札で失格・辞退が多い案件が見受けられる。工事資材は経済の状況が落ち着くまで乱高下すると思われる。発注者側としても、発注のタイミングに合わせて、可能な限り設計単価の見直しを行い、適正な入札執行ができるように配慮していただきたい。
- ・ プロポーザル方式による発注では、業者を決める選考委員の選定が重要であるため、専門的な識見を有した人材を積極的に活用することをお願いしたい。

高橋嘉一郎氏

- ・ 工事の年間発注計画においては、早期発注に努めることと併せ、工事が一時期に集中することがないように平準化できるような計画として策定してほしい。また、その発注時期に応じたコスト意識を持つことが大切である。
- ・ 総合評価落札方式において、「品質の確保」を重視するのであれば、価格以外の評価基準点のウエイトをもっと増やすことが、本方式の目的達成のキーポイントである。今後の発注を検証し、改めて検討されたい。